

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2371001294
法人名	株式会社 山市
事業所名	グループホーム グリーンハウス
訪問調査日	平成20年5月16日
評価確定日	平成20年6月11日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
**[取り組みの事実]**  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
**[取り組みを期待したい項目]**  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
**[取り組みを期待したい内容]**  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2371001294		
法人名	株式会社 山市		
事業所名	グループホーム グリーンハウス		
所在地	名古屋市中川区前田西町二丁目912番地 (電話) 052-309-7501		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年5月16日	評価確定日	平成20年6月11日

## 【情報提供票より】(平成20年4月29日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年7月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	31 人 常勤 9人, 非常勤 22人, 常勤換算 5.65人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨ALC 造り
	2階建ての 1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000・48,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年4月29日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	7名	要介護2	2名		
要介護3	8名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83 歳	最低	71 歳	最高	96 歳
協力医療機関名	児玉内科				

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅地にあるがホームの周囲は畑地で季節の野菜が栽培されており、開放的で落ち着いた環境である。居室は全室南向きで日当たりや風通しがよく、1階はそのまま庭に出ることができる。代表が地元出身でPTA、消防団活動に参加していることもあり、ホームは地域に馴染んでいる。近くの小学5年生が体験学習に訪れ、その後もボランティア活動として訪れ縦笛の演奏をしたり、学校帰りに立ち寄るなど1年を通して交流がある。入居者も運動会や学芸会を見に出かけている。消防団員の見学や近隣の人からの介護相談があった。職員は明るく楽しくをモットーに、毎日出勤した時と帰る時には必ず入居者一人ひとりに挨拶をし、理念に沿った家庭的で温もりのあるホームを目指している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善課題となった重度化した場合の方針の共有では改善が進んでおり、指針を設け重度化した際には家族、協力医、ホームが話し合いを重ね協力して対応した。鍵をかけないケアの実践では、鍵をかけない時間を設けるよう工夫を始めているが、今後の一層の取り組みが期待される。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4) 管理者は全体会議で外部評価について話し、職員が評価の意義や目的を理解するよう努め、自己評価は全職員で取り組んだ。職員から改めて仕事の内容を見直すことができた。他のホームや施設を見たいなどこれからやりたいことが出てきたとの声が出た。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4,5,6) メンバーは民生委員、児童委員、区政協力委員、社会福祉法人理事長、家族となっている。会議ではホームや職員の状況、入居者の様子、行事などについて報告している。外部評価の結果も報告されている。会議ではざっくばらんに意見が出され、近隣の様子として地域での活動が困難な状況も出された。地域のメンバーからは行事の際の協力があつた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 年2回食事会を兼ねて家族会が開かれる。職員は手紙で参加を呼びかけ、和やかな会となっている。面会の際にも声をかけ、意見など言いやすい関係を築いている。意見があつた場合には、代表や管理者、職員が話し合ったり、家族と相談や話し合いをし対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、盆踊りに参加したり子ども会の廃品回収に協力している。入居者と一緒に回覧板を回したり散歩の際に挨拶を交わしている。代表が地元に住居し、PTA会長や消防団員であることもあつて地元の人々からホームへの理解協力が得られている。近所の人々が介護関係の相談に来ることもある。近くの小学校の生徒とは1年を通して交流があり、運動会や学芸会を見に出かけている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念として「楽しい施設を創ります」など4項目を掲げている。法人代表が地元に住み、地域活動に積極的に参加していることからホームは地域に馴染んでいる。しかし、理念の中に地域との関係性は盛り込まれておらず、地域密着型サービスとしての理念とはなっていない。		地域密着型サービスとして、ホーム独自の理念を考え、地域との関わりについて盛り込むことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関やフロアの目につきやすい場所に掲示してある。代表、管理者は会議の際や折に触れて理念を具体化した話をしており、職員は日々のケアが理念に基づいたものになるよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、盆踊りに参加したりこども会の廃品回収に協力している。入居者と一緒に回覧板を回したり散歩の際に挨拶を交わしている。代表が地元に住み、PTA会長や消防団員であることもあって地元の人々からホームへの理解協力が得られている。近所の人々が介護関係の相談に来ることもある。近くの小学校の生徒とは1年を通して交流があり、運動会や学芸会を見に出かけている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は全体会議で評価の意義とねらいについて話し、職員の理解を図った。自己評価は全職員が参加した。職員から「自己評価の結果、改めて見直すことができ、これからしたいことが出てきた」との発言があった。前回の課題である市町村との連携、重度化した場合の方針の共有については改善が見られた。鍵をかけないケアの実践の取り組みはさらなる取り組みが期待される。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>メンバーは民生委員、児童委員、区政協力委員、社会福祉法人理事長、家族となっている。会議ではホームや職員の状況、入居者の様子、行事などについて報告している。外部評価の結果も報告されている。会議ではざっくばらんに意見が出され、近隣の様子として地域での活動が困難な状況も出された。地域のメンバーからは行事の際の協力があつた。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の結果を窓口を持参し報告するほか、新年度になった時に窓口に行き担当者に挨拶している。区の事業者連絡会に参加し区の担当者と情報交換し、協力を得られる関係をつくっている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1度職員が交代で手紙を書き、本人の日々の様子、体調、食事、通院、内服薬、小遣い使用状況などを伝えている。行事やレクリエーションの際の写真は、玄関に掲示するほか手紙と共に家族に送っている。家族の面会時には声かけをしたり、居室へ出かけてゆっくり話をしたりしている。緊急時や相談事など状況に応じて電話をかけている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年2回食事会を兼ねて家族会が開かれる。職員は手紙で参加を呼びかけ、和やかな会となっている。面会の際にも声をかけ、意見など言いやすい関係を築いている。意見があつた場合には、代表や管理者、職員が話し合ったり、家族と相談や話し合いをし対応している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動は最小限にしており、退職者は比較的少ない。職員の意見を取り入れ勤務時間帯の変更を進めるなど働きやすい環境づくりをしている。異動に際しては挨拶をし、新しい職員は1カ月間は研修期間とし入居者に馴染むようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人は1カ月間は研修期間とし、1日は法人内の施設で体験研修をする。代表、管理者は職員が外部の研修を受けることを推奨しており、希望者はパート職員も含め交代で出席し、報告書を書いて他の職員に回覧している。代表、管理者は日々の業務の中で具体的に教えたり相談にのっている。法人全体の研修が年1度あるがホーム内での研修会や勉強会は行われていない。		外部研修に加え、今後はさらにホームとして計画的に段階に応じた研修や勉強会を行うことが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市認知症グループホーム協議会に加入している。代表、管理者は同業者との交流に前向きに取り組んでおり、希望する職員は研修会や交流会の輪投げ大会に参加している。職員から他のホームを見学したいという声が出ている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に体験入居の利用を勧めている。見学には家族だけではなく、なるべく本人も一緒に来てもらい、入居者と一緒におやつを食べたりしばらく一緒に過ごしてもらっている。本人が来られない場合は、管理者が面接に出かけて顔を覚えてもらって不安を少なくするよう努めている。本人についての情報を多く集め、家族と相談しながら、徐々に馴染んでもらうようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と一緒に食事の用意をしながら季節の食べ物、献立について教えてもらったり、物を粗末にしないことを学んだりしている。夜勤や入浴の時などには一対一でゆっくり話す機会があり、昔住んでいた所の話や子どもの頃のことなど時間をかけて話を聞いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人から希望を聞くほか、あまり本人が話さない場合は、一人ひとりと時間をかけて話し、本人の思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族からの情報や本人の行動や様子を細かく見て連絡ノートで情報を共有し、職員間で話し合っ検討している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、短期目標3カ月、長期目標は6カ月としている。計画作成担当者は、情報収集や本人、家族の意見や要望を聞き計画を立て、フロア会議で職員に介護計画を説明し、注意点、訂正部分がある場合は変更している。家族の面会時に介護計画の確認をしてもらっており、家族が面会に来れない場合は郵送し、確認後サインして送り返してもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3カ月～6カ月毎に介護計画は見直されている。職員はケアチェック表、ケース記録、連絡ノートなどに入居者の状態、変化などを記載している。担当国会議を行った後、計画作成者は介護計画を作成し、全職員に回覧してチェックして計画を見直している。家族にも意見などを聞いている。変化が見られない入居者の見直しも6カ月毎に行われている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算をとっている。看護師との24時間の連携体制を確保している。入院時は、お見舞いに行き入居者の状態を把握する。看護師は、同法人から週1回訪問している。全入居者の健康チェックを事細かに看護連絡帳に記載し、受診の時に役立てている。緊急の際や家族の通院介助が困難な場合は職員が柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医院の説明を行っている。定期健診は1カ月に1回受診している。通院介助は、協力病院は職員が行っているが、協力病院以外の通院介助は基本的に家族にお願いしている。家族と一緒に医師の説明に立ち会ったり、家族がケースワーカーから情報を聞いたり、病院からホームにサマリー（情報）が届いている。医師から大きな病院に紹介してもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、「重度化した場合における対応に係る指針」に基づいて説明し同意書を受け取っている。できるだけ早い段階からケースバイケースで本人、家族、医師、職員で何度も繰り返し話し合う。終末期を終える場合は家族で「どうするか」をまとめ、カンファレンスで話し合っている。職員は緊急時における連絡先を決め、素早く対応できるよう連携を取っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者の居室に入る時には、ノックや声かけをするなど意識をもつようにしている。居室に汚れものがある場合は入居者の気持ちを配慮しながら対応している。書類の処理はシュレッダーを使用している。管理者は職員に「名前が書いてあるものは持ち帰らない。個人情報をお話さない」と会議で定期的に話している。入居者からの個人情報提供同意書がある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や1日の流れは目安として決まっているが、一人ひとりのペースを尊重している。喫煙コーナーがありタバコを吸う人や毎晩晩酌を楽しむ人もいる。行事やレクリエーションに参加するほか、テレビを見たり庭の草を抜いたり居室で読書をしたりと思いつきに過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、1週間持ち回りで職員が入居者の食べたいものを聴きながら立てている。隣の畑に行き入居者と一緒に新鮮な野菜を収穫し、調理、後片付けなど入居者ができる範囲でしている。嚥下体操（喉に詰まらないように）をしている。食べやすいように入居者に合わせてお粥、一口大のおにぎりなど工夫され楽しそうに食事している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1階は機械浴（2人介助）、2階は家庭風呂の設備で、入居者は自由に選べる。入居者は大体週2～3回入浴しているが希望を聞いて対応している。同性介助は入居者の希望で1～2カ月間慣れるまでしている。拒否される入居者には、時間変更、職員の交代、言葉かけをし、連絡ノートに書きフロア会議で誘導の仕方について検討している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除（手すりを拭く、ハンディーモップでほこりを取る）、調理、食事の後片付け、食器洗い、おやつ作りなどを入居者ができる範囲で職員と一緒にしている。カラオケ、書道、紙工作など入居者の能力に合わせて楽しみながら行い、作品は壁に掲示されている。ホームでの運動会、ユニット毎の輪投げ大会に参加している。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や入居者の状態に添って、ホームの周りを散歩したり、職員と一緒に食材の買い物に行っている。気分転換ができるように大好きなドライブに行ったり近所の馴染みの駄菓子屋さんに行ったりしている。入居者全員と一緒にお弁当を持って東山植物園に出かける計画をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解している。当初は鍵をかけていたが、最近は1、2階の入居者の雰囲気を見て、見守りができる状態の時は短時間でも開けるようにしている。居室からベランダへの鍵も入居者の能力に合わせて開けている。浴室は使用しない時は鍵をかけている。		現在、取り組んでいることから、鍵をかけない時間が少しずつ長くなるように職員と一緒に入居者一人ひとりの外出の癖や傾向などを話し合い、今後のさらなる工夫に期待される。



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消火器を使用しながらの日中の火災訓練を行っている。代表が地域の消防団に加入しており協力が得やすい。災害時に使用するためのヘルメットは事務所など要所に置かれている。非常食については、保管する場所がないので用意されていないが、保管場所を現在検討中である。		管理者は、防火管理責任者の資格を持っており、人工呼吸等の講習を受けている。非常食の保管場所をなるべく早い時期に用意され、火災や地震等の発生に備えて食料や飲料水等を準備することを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持つ管理者は「美味しく楽しく食べるのが栄養価である」と考えている。時々、献立を確認し職員にアドバイスをしている。献立は肉、魚、野菜をバランス良く取り入れられている。水分1,300cc前後、カロリーは1,500~1,800kcalを目安に摂取している。冷蔵庫に1人前の目安量が貼られ、基本ラインを決めている。体重測定は月1回行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした廊下には手すりがあり、所々に1人用の椅子が置いてある。居間にはテーブル、ソファ、大きな観葉植物もあり和める空間となっている。入居者と一緒に花見のお弁当づくりやおやつ作りの写真が掲示されている。また、折り紙で鯉のぼり、菖蒲などの作品が飾られている。喉が渴いた時には、いつでも飲むことができるようお茶が準備してある。トイレも手すりがついて広々としている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には入居者の写真や干支の絵が飾ってある。居室には家族の写真や馴染みの仏壇、テレビ、イス、時計、ベット、タンスが置いてある。ベッドから降りて歩くのに心配な入居者には、本人がベッドから降りるとセンサーが反応し職員に知らせるマットを家族の協力を得て、足もとに設置している。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。